

日米先端工学シンポジウム Most Interactive Presenter's Award を受賞して

機能物性研究グループ 林 久美子

この度、2023 年日米先端工学シンポジウム(JAFOE) (2023年7月18日~20日、早稲田大学) [1]のMost Interactive Presenter's Award を受賞しました。この賞は日本工学アカデミー、全米工学アカデミー、科学技術振興機構(JST) が共催する 2023 年日米先端工学シンポジウム(JAFOE)において日米研究交流に最も貢献した参加者に日本工学アカデミーから授与されるものです。なお、JAFOE には以下の特色があります。

- 異なる4分野の発表・討議すべてに全参加者が出席する異分野交流の場
- 厳選された若手研究者のみにより、制約のない自由活発な討議
- 企画・運営も若手研究者によって行なわれる
- 発表者・討議者は企画・運営に携わる若手研究者と EAJ などが選出

また、以下に示すように JAFOE は歴史のある取り組みとして発展してきました[2]。

- 1995 年以来、全米工学アカデミーが若手研究者間の議論の場として FOE(Frontiers of Engineering)を開催
- 国際的な規模に広げ、1998 年、独米間で二国間シンポジウムを発足
- 日米両国間で同様なシンポジウムを行う提案があり、JST が主体となり、日本工学アカデミーがこれに協力する形で、2000 年 11 月に日本で第 1 回が開催
- 第 2 回は 2002 年に日本で行われ、以後は毎年米国と日本で交互に開催
- 2009 年に米国で第 9 回を実施。これを機に、日本側運営主体は、JST から日本工学アカデミーに代わり、JST は引き続き本事業を資金的側面から支援
- FOE は世界的にも注目される若手育成プログラムとなり、米国内およびドイツ、日本との実施に加え、中国、インド、EU、ブラジルなどとも行うことが決定

JAFOE 2023 では日米両国から選抜された若手研究者(30~45 歳程度)30 名ずつ(総勢 60 名程度)が最先端工学分野の 4 つのテーマについて発表・討議を行ないました。会議前夜の 7 月 17 日、日米参加者の顔合わせを行うため

に宿泊先のリーガロイヤルホテル東京で Welcome Reception が開催され、私も参加しました(写真左)。18 日朝から小林喜光会長のビデオ挨拶、Dr. Al Romig(米国工学アカデミーの Executive Officer)、菱田公一会長代理、小林治 JST 国際部長の挨拶があり、所千晴(早稲田大学教授)運営委員長と Christopher Schuh(当時 MIT 教授)運営委員長の司会のもと会議が始まりました。討議が行われた 4 つのテーマは以下のものとなります。

- Materials by Design(沼田圭司運営委員(京都大学))
- Computational Approaches to Address Infectious Diseases(夏目やよい運営委員(医薬基盤・健康・栄養研究所))
- The Arduous and Exciting Path to the Development of Successful Mobility Exoskeletons(宮寄哲郎運営委員(東京大学))
- Circular Economy(天沢逸里運営委員(東京大学))

また、参加者が発表するポスターセッションがあり、私は「Cargo delivery in neurons, and synaptic formation simulator」のタイトルでポスター発表を行いました。夜には伊藤公平慶應義塾大学塾長にイブニングトーク(レクチャー)、19 日にはエクスカッションとして産業技術総合研究所(産総研)AI センター、日本科学未来館を見学、未来館の浅川智恵子館長の御講演など、単なる研究会の枠を超えた異分野交流の密度の濃い会議でした。エクスカッションの AI センターで見た実験作業ロボット「まほろ」、未来館で見た視覚障害者の移動を支援する自律型ナビゲーションロボット「AI スーツケース」などの次世代技術は間近で見て感銘を受けました。Dinner で話した Skip Innovation(Google X からの独立、スマーティパンツなどの歩行支援ウェアラブル端末)[3]の Kathryn Zealand 氏からも、世界で活躍する新しい女性像として、刺激を受けました。

3 日間を通じて積極的な討論への参加を行い、発表内容に対する理解を深めるとともに、参加者や関係者間の相互理解と連携強化に貢献したことが評価され、この度の受賞につながりました(写真右)。今後も、国際交流に積極的に貢献していく所存です。

